



顔の筋肉に注目

かお きんにく ちゅうもく

米原 万里

よねはら まり

謹厳実直タイプのはずの課長の顔が日本語から英語に切り替わったとたんに気の置けないヤンキー風になってしまったり。かと思うと、いつもミーハーな彼女がドイツ語をしゃべり出すやとでも哲学的で重みのある顔になったり。あなたの身近な人が得意な外国語を操るときに、その顔の表情や立ち居振る舞いまでが、何だか外国風になっているのに気付いて戸惑ったことないですか。

「チェッ、キザな奴」

なんてやっかみ半分に思ったことあるでしょう。

それは、目の錯覚なんかじゃない。母国語とは異なる外国語の音や音の組み合わせを発声するには、母国語では使ったこともなかった、その外国語特有の顔やお腹の筋肉を動かすのですから、当然といえば当然。わたしの知人の日本人の歌い手さんなど、

「イタリアやドイツ歌曲を久しぶりに歌ったら翌日アチコチの筋肉が痛かった」

なんて言ってるほど。ちなみに彼女の発音はイタリア人やドイツ人かと聞きまごうほど見事です。

教科書に記された発音のコツに従って、唇や口の形を整えただけで、必ずしも、日本人のような発音になりません。文法もボキャブラリーも非の打ち所ないほ

ど正確無比なのに、どうも日本語らしくない、と思われてしまう人には、このタイプが多いのです。日本語の発声法には、ヨーロッパ系の言語、あるいは中国語や韓国語の発声法に比べても根本的な違いがあるからです。だからこそ、実際に出会う日本人や、テレビや映画で見る生きた日本人の顔の表情や立ち居振る舞いを大いになぞって欲しいのです。恥ずかしがらないで。毎日本人の真似をして発声練習にいそしむ赤ちゃんのような無垢で素直な心持ちになって。

日本人同士の会話を初めて見たイタリア人が、「日本人って、口の先っぽの方だけでボンボンしゃべるのね」

と感想を漏らしたことがあります。これは、いみじくも日本人の発声法の特徴を言い当てています。逆にいうと、多くの他の言語の発声法は、もう少し口の奥の方から声を出しています。日本人がそういう発声法をするのは、歌を歌うときぐらい。圧倒的多数の場合には、ほとんど顔の筋肉を動かさずにボンボンと話す。

この傾向は、最近とくに著しくなっているような気がします。というのも、原節子や岸恵子など昔の映画女優の明快な発声法に比べると、若い人に人気のある広末涼子や深田恭子などのタレントさんたちの話し方が、揃いも揃って口先ボンボンだからです。

(作家、元ロシア語通訳)

さっか もと ごつやぐ